



TITLE:

彙報

AUTHOR(S):

CITATION:

彙報. 人文學報 1996, 78: 149-164

ISSUE DATE:

1996-03

URL:

<https://doi.org/10.14989/48483>

RIGHT:

彙 報

1995年（平成7年）1月～1995年（平成7年）12月

研 究 状 況

I 班 研 究

日 本 部

近代東アジア世界の構造連関

班長 山室 信一

東アジア世界におけるヒト・モノ・思想・文学の相互交渉がもたらした事象の諸相を明らかにするとともに、今年度はそれが近代西洋とのかかわりによってどのように生じたのかを検討した。

また、近代東アジア世界がそれ以前の地域世界といかなる連続と断絶の下に成立しているのかについても種々の事例をとりあげつつ、そのシステムと表象の両面について討論を重ねた。なお、後半からは報告書作成に向けてテーマの検討、刷り合わせを進めた。

班員 飛鳥井雅道、石川禎浩、落合弘樹、籠谷直人、齋藤希史、佐々木克、瀧井一博、塚本 明、狭間直樹、水野直樹、森 時彦、安富 歩、山本有造、ロナルド・トビ

1995年

- | | | |
|-------|------------------------|---------|
| 3月6日 | 神功皇后三韓征伐譚 | 塚本 明 |
| 4月17日 | 研究報告書課題報告 | |
| 5月22日 | 吉野作造と中国 | 狭間直樹 |
| 6月5日 | 1880年代の対アジア貿易と直輸出態勢の模索 | |
| | 一日本昆布（株）を事例として一 | 籠谷直人 |
| 6月19日 | 「シュタイン詣で」と明治国家 | |
| | | 滝井一博 |
| 7月3日 | 江戸期の異人―近世の他者意識への試み | ロナルド・トビ |

- | | | |
|--------|---------------------------|-------|
| 10月2日 | 石田興平のモデルに見る日本・満洲・上海の貨幣的連関 | 安富 歩 |
| 11月6日 | 思想連鎖の磁場としての東アジア | 山室信一 |
| 11月20日 | 文学史の発見と東アジア | 齋藤希史 |
| 12月4日 | 征韓論の前提（Ⅱ） | 飛鳥井雅道 |
| 12月18日 | 東アジアにおける朝鮮人の国籍問題 | 水野直樹 |

「大東亜共栄圏」の経済構造

班長 山本 有造

先の山本班『「満洲国」の研究』の終了をうけ対象を「大東亜共栄圏」に広げようとしたものであるが、当面は経済史に分析対象をしばり、intensiveな共同研究を行いたい。できれば、いずれ予定する『「大東亜共栄圏」の研究』のための準備会的性格をも持たせたいと考えている。現在、水曜日隔週に研究会を開いている。

班員 山本有造 水野直樹 安富歩 許雪姬 劉秉虎（以上所内）松田利彦（文学部）木村光彦（神戸大）近藤正己（近畿大）平井広一（北星学園大）松本俊郎（岡山大）山田 敦（大阪市大・院）

1995年

- | | | |
|-------|----------------|----|
| 2月22日 | 瀬尾メモについて | 松本 |
| | 1940年代台湾工業の見取図 | 山田 |
| 4月12日 | 台湾工業化の諸会議について | 近藤 |
| | 「大東亜金融圏」論 | 山本 |
| 4月26日 | 資源委員会関連の資料について | 松本 |
| | 戦争末期日本の植民地統合 | 水野 |
| 5月10日 | 東亜経済懇談会について | 山本 |
| | 中国の台湾「光復」 | 近藤 |
| 5月24日 | 満洲中央銀行の発券メカニズム | 安富 |

人 文 学 報

	日中戦争前の日本の経済外交―第2次「日印会商」を事例に―	籠谷	始め、今年度は Robert Thom 《意拾喩言》や渡部温《通俗伊蘇普物語》など、イソップ物語関連の翻訳を選読した。
6月14日	資料紹介・朝鮮銀行調査部『京畿道農村における通貨膨張の現状』	水野	1995年
	満洲中銀の資金創出・資金投入メカニズム（改訂版）	安富	1月6日 漂荒紀事注釈原稿検討 齋藤・谷川
6月28日	書評・高橋泰隆『日本植民地鉄道史論』	山田	2月10日 同 平田・米井
	日中全面戦争期における華北の政治支配	副島	3月10日 同 木村・松田
7月12日	満洲中銀の横浜正金への低利融資問題	安富	3月28-30日 同 齋藤・谷川
	書評・足田康行編『「南方共栄圏」』	山本	5月10日 同 平田・米井
9月27日	「日蘭会商」について	籠谷	6月7日 江戸ハルマと長崎ハルマ 松田
	書評・堀和生『朝鮮工業化の史的分析』	松田	6月28日 19世紀日本における言説の分割 谷川
10月11日	訪中報告	山本	9月6日 イソップ会読準備・重山文庫見学 齋藤
	国民政府資源委員会について	石川禎浩	9月27日 イソップ選読 齋藤・平田・谷川
10月25日	満洲国農業金融調査について	安富	10月11日 イソップ選読 米井・青木
	満洲鉄鋼業の戦争被害―化工部門の損害と復旧―	松本	10月25日 <神>の翻訳 鈴木
11月8日	南洋協会についてのメモ	籠谷	11月25日 近代中国における西學東漸と言語文化交流史の研究 内田
	いわゆる「南方」関係調査機関・団体について	高橋益代	11月29日 イソップ選読 齋藤
11月22日	アジア政経学会大会報告要旨	山本	12月13日 イソップ選読 松田・谷川
12月13日	訪韓報告	安富	班員 齋藤希史 飛鳥井雅道 宇佐美齊 大浦康介 金文京 藤田隆則（以上所内）木村崇 松田清（以上総合人間学部）平田由美 米井力也（以上大阪外大）谷川恵一（高知大）青木稔弥（神戸松蔭女子学院大学）鈴木広光（樟蔭女子短期大学）
	フィリピン日本軍政の調査活動とその問題意識	盛田良治	転換期における個人と組織 班長 佐々木克

異言語接触の場として十九世紀日本

班長 齋藤希史

本研究は、十九世紀の日本という時空間をさまざまな言語が接触・混淆した場としてとらえ、そこで何が生まれ、また消えていったのかを考えるものである。本年度は、中国俗文学や漢訳聖書、坪内逍遙など、関連する研究テーマを持つあらたな班員の参加も得て、より多元的に討議を進めることができた。また、二～三回連続で行なう短期サイクルの会読も

歴史の転換期において、個人がどのように生活し、いかに生き、あるいは生きざるをえなかったのか、有名、無名の群像の、ライフスタイルを明らかにすることを、この研究は第一の課題としている。班員各自が、一人あるいは複数の人物を担当することにしたが、当面对象とする人物は、政治家、志士、公家、大名、幕臣、学者、豪農、老農、村役人、そして侠客、女性等々。多様・多彩な群像が選ばれた。この研究は、限られた史料と時間的制約があるため、かならずしも対象とする個人の伝記的研究をめざすものではない。むしろ転換期における社会ならびに組織と個人との関わり、という問題に比重を置いている。さらにもう一つの問題は、まとめの段階での課題でもあるが、個々人の生活史を集合し、検討を

加えることによつて、その時代の社会のイメージと断面を、浮かび上がらせる事ができると考えており、この課題をも、常に心に留めて、研究を進めて行くことにしたい。なお転換期のある時期と特定していないが、班員の研究領域と問題関心の関係から、主に明治維新期が中心となる。

班員 佐々木克 飛鳥井雅道 落合弘樹 (以上所内) 藤井譲治(文学部) 青山忠正(大阪商業大) 池田 宏(滋賀県立図書館) 奥村 弘(神戸大) 小股憲明(大阪女子大) 勝部真人(和歌山高専) 鈴木祥二(名古屋大) 鈴木栄樹(京都薬大) 谷山正道(天理大) 辻ミチ子(京都文化短大) 塚本 明(三重大) 原田敬一(仏教大) 母利美知(彦根城博物館) 藪田 貫(関西大) 手島一雄 岸本 寛(以上立命館大学院生) 三沢 純(広島大学院生) 沈 箕戴(京都大学院生)

1995年

- 2月10日 朗廬阪谷素について—その2— 小股
2月24日 「奇兵隊日記」原本の伝存状況について 青山
4月28日 幕末政治と大久保利通 佐々木
5月26日 松村弁治郎の思想と行動 落合
7月21日 日清戦争報道と従軍記者 原田
8月16日 殿様祭から天皇祭へ—維新时期民衆意識の諸相— 三沢
9月29日 奈良県再置運動をめぐる人々 谷山
10月27日 日本美術史の成立・試論—古代美術史の時代区分— 高木
12月8日 『官報』創刊の政治過程—形成期の近代国家とメディア政策 鈴木栄

西 洋 部

象徴主義の研究

班長 宇佐美齊

4年間の予定で1993年4月より発足したこの研究班の目標と活動内容の概略は、以下の通りである。

フランスを中心とするヨーロッパの文学テクストを主な対象として、象徴主義が提起した問題とは何かを問うことから始める。その際、音楽・美術・演劇などの諸芸術との関わり、政治や社会の変動が及ぼした影響、思想的なコンテキスト、および中国・

日本など非ヨーロッパ諸国との比較対照の視点をも重視する。ついでそれらの諸問題がその後どのような展開を遂げたかを問う。したがって時代区分としては、19世紀中葉から1920年代までを視野に収める。また同時に、分析哲学、精神分析学、社会人類学など人文諸科学における象徴理論についても合わせて考究する。研究会は原則として隔週に開催し、口頭発表と討議を重ねたうえで、最終年度には論文執筆、報告書の刊行を予定している。

班員 宇佐美齊 大浦康介 齋藤希史 阪上 孝 鈴木啓司(以上所内) 田口紀子 吉田 城(以上文学部) 多賀 茂 松島 征(以上総合人間学部) 柏木隆雄 上倉庸敬(以上大阪大) 吉田典子(神戸大) 内藤 高 山路龍天(以上同志社大) 柏木加代子(京都市芸大) 小西嘉幸(大阪市大) 小林 満(京都産大) 島本 浣(帝塚山学院大) 丹治恆次郎(関西学院大) ビエール・ドゥヴォー(甲南女子大) 原田邦夫(愛知県大) 小山俊輔 三野博司(以上奈良女子大)

1995年

- 1月23日 象徴としての漢字 —フェノロサの漢字論から— 斎藤
2月13日 人類学における象徴分析 —儀礼研究における象徴をめぐる— 田中
3月13日 Madame Bovary, symboliste ou réaliste? —problèmes de description— 田口
3月27日 Simbolismo dell'alfabeto —ルネサンス・バロック期の technopaegnon, calligramma, rebus, geroglifico, emblema, impresa などを中心に— 小林
4月17日 バスカルと「象徴」 廣田
5月8日 「高踏派」から「象徴主義」へ—言語の分身と死— 小山
5月22日 エリファス・レヴィにおける光と闇のメタファー —オカルティズムの光学— 鈴木
6月5日 フランス象徴主義批評に関する諸問題 丹治
6月26日 西欧中世における象徴の概念について

人 文 学 報

て	上倉	5月22日	中間総括（その4）	全員
7月10日	Roman moderneをめぐって－ジー ドとヴァレリー－	6月12日	スペルベルをめぐって	菅原
	三野	6月26日	「演劇性」をめぐって	藤田
9月18日	文学におけるシンボルについて－ポー ドレールの Parfum を通して－	7月10日	「フッティング」をめぐって	串田・水谷
	原田	9月11日	表情認識モデルにかんする－考察	米谷（ゲスト）
10月2日	マラルメにおけるテキスト経済学	10月9日	叙述のこぼ・ものまねのこぼ	藤田
	松島	10月23日	知ることの位相	谷
10月23日	Baudelaire et l'esprit de son siècle Guyaux	11月13日	ディスコース・パーティクルについ て	山森
11月13日	分析哲学とシンボル理論－Nelson Goodmanの場合－	11月27日	配慮の形式	菅原
11月27日	ギュスターヴ・モローと象徴主義 －神話の変貌－	12月11日	マルチチャンネル・コミュニケーション ンからみたアイロニー解釈	定延
12月16日	クロードルと象徴主義 内藤 ブルーストと象徴主義 山路	12月16日	プロフェッショナル・ビジョン グドウィン（ゲスト）	

コミュニケーションの自然誌(二) 班長 谷 泰

本年度は、来年度を報告書の結果、出版の期間としてあてるという予定のもとに、各分担者の執筆内容を中心にした報告にあてることとした。まずはじめに、全員執筆予定のテーマをもちより総合討論をおこなったのち、各班員が順次発表内容を報告、討論にあてた。原稿提出は、きたる四月末として、その後は各完成原稿の相互チェックと、他の残された問題の報告にあてる予定である。

班員 谷 泰 田中雅一 串田秀也 藤田隆則（以上所内）菅原和孝（総合人間学部）北村光二（弘前大）木村大治（福井大）高畑由紀夫（鳴門教育大）野村直樹（名古屋市立大）澤田昌人（山口大）野村雅一（国立民族学博物館）早木仁成（神戸学院大）細馬宏通（志賀県立大）水谷雅彦 定延利之 山森良枝（神戸大）宮脇幸生（大阪府立大）

1995年

1月23日	牧畜民トゥルカナにおける儀礼の機能	北村
2月13日	バカ・ビグミーにおける発話重複と長い沈黙	北村
3月27日	中間総括（その1）	全員
4月17日	中間総括（その2）	全員
5月8日	中間総括（その3）	全員

主体・自己・情動構築の文化的特質

班長 田中雅一

本研究班では、1）近年注目されつつある主体（subject）や自己（self）、行為者（actor）、パーソン、エージェント、個人（individual）、アイデンティティ、情動などの概念に着目し、そうした概念の学説史上の背景と意味を探り、2）これら諸概念の民族誌記述（とくに自省的・実験的民族誌と呼ばれるもの）における有効性などを批判的に検討するとともに、3）通文化的観点から参加者の専門とする地域の主体や自己などの概念の特徴を考察することを目指す。二年度ということもあり、さまざまな報告がなされた。

班員 田中雅一 谷 泰 藤田隆則 根布厚子（以上所内）松田素二（文学部）菅原和孝（総合人間学部）栗本英世 田辺繁治 林 勲男（以上民博）小田 亮（成城大）春日直樹（奈良大）川村邦光（天理大）窪田幸子（大手前女子大）棚瀬慈朗（龍谷大）富山一朗（神戸市外大）西井涼子（東京外大）渡辺公三（立命館大）金谷美和（人・環・院）中谷純江（金沢大・院）Kelly Williams（人文研）

1995年

2月6日 オーストラリア農村から見たパーソン

- ンの概念の再検討ーギアツ, キルク
パトリックの所論によせて 森 明子
- 2月20日 フーコーにおける<統治><主体>
そして<自己>ーその分析手法の観
点から 近藤哲朗
- 3月6日 盲人文化と社会福祉政策ー日英比較
の視点から 杉野昭博
- 4月10日 戦場の記憶 富山一郎
- 4月24日 キールタン・感情体験・聖人信仰ー
ヒンドゥー教のバクティ(信愛)伝
統をめぐる一考察ー 中谷哲弥
- 5月15日 南タイの村落における実践宗教ー選
択肢としてのイスラームと仏教ー
西井涼子
- 5月29日 アイデンティティー論から見た親族
関係 渡辺公三
- 6月5日 展示における異文化表象ー日本民芸
運動をめぐるー 金谷美和
- 6月19日 ベイトソンの杖ー文化的自己観と心
理プロセスー 北山 忍
- 7月3日 Social Actorとしてのヨロongo女
性 窪田幸子
- 7月17日 出家・個人・カーストーセンゲンダ・
ムドリヤールとリンガーヤト派ー
田中雅一
- 9月18日 シンガポールの都市と幽霊 根布厚子
- 10月2日 *Crafting Selves: Power, Gender,
and Discourses of Identity in
a Japanese Workplace* by
Dorinne K. Kondo をめぐって
田中雅一
- 10月16日 図式と記憶ー儀礼のなかの主体ー
田辺繁治
- 11月6日 占いと日本近代ー迷信・権威・メディ
アー 鈴木健太郎
- 11月20日 <歴史>の生成する現場ーペルー・
クスコ県における記憶の政治学ー
細谷広美
- 12月4日 韓国社会と両班化ー儒教儀礼<精緻
化>と<簡素化>をめぐるー
岡田浩樹
- ステイタスと職業 班長 前川 和也
工業化以前の諸社会で、それぞれの職業がどのよ
うな社会的評価をうけていたか、社会編成の原理が
職業ステイタスとどのようにかかわっていたのかが
議論されてきた。共同研究の最終年度にあたる。報
告書『ステイタスと職業：前近代社会はどのように
編成されていたのか』(仮題) は、1996年度中に公
刊される。
- 班員 前川和也 佐々木博光 田中雅一 横山俊
夫(以上所内) 服部良久 夫馬 進 南川高志(以
上文学部) 川島昭夫(総合人間学部) 阿河雄二郎
脇田晴子(以上大阪外大) 井上浩一 大黒俊二(以
上大阪市大) 川北 稔 江川 温(以上大阪大) 河
村貞枝(京都府大) 川本正和(奈良産大) 小山 哲
(島根大) 鈴木利章(神戸大) 波多野敏(京都学園
大) 早川良弥(梅花女子大) 三成美保(大阪経法大)
森 明子(国立民博) 山辺規子(奈良女子大) 高田
京比子(京大研修員) 田中俊之(京大大学院)
1995年
- 1月10日 中・近世ビレネー地方の被差別民カ
ゴ 江川
- 1月24日 The middle sort of people の成
立と分解 川北
- 1月31日 ステイタス, 権力, 個人: Louis
Dumont, Homo Hierochicus の
射程 田中雅
- コミュニケーションの社会史 班長 前川和也
班員 前川和也 小山 哲 田中雅一 富永茂樹
横山俊夫(以上所内) 服部良久 夫馬 進 南川
高志(以上文学部) 川島昭夫(総合人間学部) 阿河
雄二郎(大阪外大) 井上浩一 大黒俊二(以上大阪
市大) 川北 稔 江川 温(以上大阪大) 河村貞枝
(京都府大) 川本正和(奈良産大) 佐々木博光(大
阪府大) 三成美保(摂南大) 森 明子(国立民博)
山辺規子(奈良女子大) 脇田晴子(滋賀県立大) 高
田京比子(京大研修員) 田中俊之(京大大学院)
- コミュニケーションのスタイルは、時代により、
また社会により多様である。とりわけ電子メディア
以前の社会においては、メッセージだけが行き交う
ことはなく、人と人との出会いや、人と物の移動が

情報流通のための不可欠の前提であった。この共同研究は、主として工業化以前のヨーロッパ、イスラム世界、東アジアの諸社会を対象とし、コミュニケーションが営まれる社会空間、そこでの人々の作法、複数のメディアの使い分け、情報流通と公権力の関わりなどを、従来までのような技術史的な視点からではなく、社会史的な観点から研究し、前近代社会のコミュニケーションの特質を比較検討することを目的としている。

1995年

- 5月9日 「コミュニケーションの社会史」の可能性 前川
- 5月16日 近世ポーランドにおける政治とメディア 小山
- 5月30日 説教の聴衆：15世紀トスカナの説教記録から 大黒
- 6月6日 Le machine à lire：コンドルセの活字メディア論 富永
- 6月20日 かたこと直し考 横山
- 6月27日 イブン・バンナーの『日記』をとおしてみた11世紀のバグダード 川本
- 7月4日 ビザンツ政治史における手紙について 井上
- 9月19日 もう時代区分なんかいらない 佐々木
- 9月26日 宮廷とコミュニケーション 服部
- 10月3日 コミュニケーションとしての法：啓蒙期ドイツの法言語改革をめぐる 三成
- 10月17日 近世期フランスの「国王の入城」儀礼 阿河
- 10月24日 ローマ帝国におけるリテラシーとコミュニケーション 南川
- 11月7日 16世紀ドイツの謝肉祭 田中俊
- 11月21日 訟師秘本のなかの法律情報 夫馬
- 11月28日 中国における商業出版について 金文京
- 12月5日 中世ボローニャの書籍取引 山辺
- 12月19日 政治経済と言語アイデンティティ：オーストリア国境の村から 森

インド文化史の諸問題

—古代インド王権とその周辺— 班長 井狩彌介

政治権力と宗教権威との関係は、世界の各文明地域においてそれぞれ独自の様相をもって展開し、その文明の基本性格と密接に結びついている。古代インドにおいてこの問題は、権力の中心に立つ王と、正統な宗教儀礼伝承を独占するブラーマン知識階級との関係に典型的に現われる。本研究では、本来は独立した文献群として発生した「法典」と「王権政略論」が次第に相互影響を及ぼしつつ歴史的に交差して行く過程を焦点に据える新たな視角から、インド学各分野の専門研究者の協力のもとに、権力と権威との関係構造とその歴史的展開の考察をはかる。本年度には、叙事詩『マハーバーラタ』の「ラージャダルマ（王法）」章（XII.1-128）を取り上げ、隔週に行われる研究会ではテキストの会読形式を中心として研究が進められている。

班員 荒牧典俊 藤井正人 船山 徹（以上所内）
 徳永宗雄 御牧克己（以上文学部）赤松明彦（九州大）永ノ尾信悟 土田龍太郎（以上東京大）榎本文雄（華頂短大）狩野 恭（神戸女子大）黒田泰司
 八木 徹（以上大阪学院大）後藤敏文 伏見 誠（以上大阪大）後藤純子（大阪市立大）島 岩（金沢大）正信公章（追手門学院大）高島 淳（東京外大）中谷英明（神戸学院大）林 隆夫（同志社大）引田弘道（愛知学院大）松田祐子（東方学院）矢野道雄（京都産大）渡瀬信之（東海大）乙川文英
 小林正人 杉田瑞枝 野田智子 村上昌孝 山下 勤（以上京大・D.C.）梶原三恵子（大阪大・D.C.）

近代社会における研究者の組織化

—研究所・学会・学派— 班長 阪上 孝

19世紀も後半に入ると、今日われわれが「研究者」と呼びならわしている人々が大量に出現し、さまざまな「研究所」や、専門的な「学会」「学派」へと「組織化」されてゆく。この現象を個々の研究所・学会等の検討をつうじて解読してゆく、というのが本研究班の基本的なねらいである。2年目を迎えた本年は、ヨーロッパ以外の世界の諸地域にも対象を広げながら、さまざまな研究所・学会等の具体的な

事例が報告された。また、それと並行して、共通の問題意識を高め、論点を明確にするために、班員が共通のテキストを読む機会をもった。次年度もこれまでの研究報告・討議を継続しながら、「組織化」をめぐる問題点をさらに探ってゆく予定である。

班員 上野成利 大浦康介 阪上 孝 瀧井一博
田中雅一 富永茂樹（以上所内）川島昭夫（総合人間学部）崎山政毅（農学部）佐和隆光（経済研究所）宇城輝人 北垣 徹（以上京大研修員）前川真行（京大大学院）上山隆大 小林清一（滋賀県立大）富山一郎 光永雅明（以上神戸市外大）中岡哲郎（大阪経済大）西川長夫 渡辺公三（以上立命館大）水嶋一憲（関西学院大）牟田和恵（甲南女子大）山中浩司（大阪大）

1995年

- 1月20日 メディアとネットワーク—グローバル化の未来 室井
- 1月27日 熱帯科学と植民地主義 富山
- 2月24日 植物学の同胞—インド植物学の発達と国家 川島
- 3月17日 アサイラムと精神医学—「治療」のディスコース 山中
- 3月24日 犯罪者捜査の国際化—19世紀末のidentificationの手法とその普遍化 渡辺
- 4月28日 家族の政治学—フランクフルト社会研究所・共同研究『権威と家族』をめぐる 上野
- 5月12日 Pinel's *Nosographie* and the status of psychiatry P.Dumouchel

- 5月26日 ウェブ夫妻『社会研究のメソッド』をめぐる 光永
- 6月9日 組織化の有機性イデオロギー—中井正一の〈集団の論理〉 前川
- 6月23日 アメリカ研究の組織化—ニュー・ヒストリシストからニュー・アメリカニストへ 水嶋
- 7月21日 日本における衛生学の誕生—大日本私立衛生会について 阪上
- 9月22日 明治期日本における国家学の継受—

国家学会をつうじての考察 瀧井

- 10月13日 人類学研究所の展開—アフリカのローズ・リビングストン研究所をめぐる 田中
- 10月27日 ル・プレー学派の分裂—直系家族の観念との関連で 富永
- 11月10日 国家介入主義と計画化 小林
- 11月24日 変化の中のことば—1920～30年代のペルー・アヴァンギャルド運動を中心に 崎山
- 12月8日 国際失業会議と失業問題 宇城

東 方 部

唐宋美術の研究

班長 曾布川寛

1990年4月から始まった「六朝美術の研究」は、1995年3月をもって終了し、1995年4月から新たに5年の計画で「唐宋美術の研究」を開始した。本研究は隋、唐、五代、宋を扱い、この時代的美術全般について精確な理解をめざす。特に繁栄の極に達した盛唐美術を中心に、初唐からそこに至った過程と、一転して写実的な山水画や花鳥画に代表される宋代美術を生んだ背景を探る。具体的な方法としては出土や伝世の造形美術、石窟寺院の佛教美術、画論や書論の芸術論を三本の柱として、発表と会読をまじえて進めていく。また造像記と芸術論の会読を行い、造像記として『大金武州山重修大石窟寺碑』（稲本泰生担当）、宝山靈泉寺石窟造像記（大内文雄担当）、芸術論として『唐朝名画録』（曾布川寛担当）を取り上げた。

法顯傳研究

班長 桑山正進

本研究班の最終年度である。5世紀初頭に中央アジアからガンダーラ、中インドを経てスリランカにいき、マヒーシャーサカ部の律典を得、南海より中國に歸った法顯の行歴記は、當時の中央アジア、インドの佛教事情を敘述している。章巽『法顯傳校注』（上海古籍出版社、1985）をテキストにその注を讀みつつ、19世紀の佛譯注1例、20世紀初めの英譯注3例、日本語譯注2例の諸譯を照合して、據るべき現代語譯を作成し、あわせて5世紀の中央アジアと

インドを班員の専門部門である歴史、言語、宗教、考古、美術など多角視点をもって検討した。譯注は再度の検討を経たうえで公刊する。

利用門の譯注を田中淡、中原健二、黄 蘭翔、武田時昌、『哲匠録』補遺の譯注を外村 中が、それぞれ擔当した。

中國語音韻史の研究

班長 高田時雄

本研究班は、一般の書目には著録されることの稀な明清の音韻學關係の資料を取り上げ、序跋や凡例の會讀を通じて、その資料的性格を闡明し、明清の音韻史を辿ろうとするものである。最終的には、『小學考』の補編ともいべき明清の音韻學書の提要の作成を目的とする。三年目の今年度は、以下の資料に関する班員諸氏の報告を得た。

洪武正韻（玄幸子）、類音・音韻須知（浦山あゆみ）、彙音妙悟（吉川雅之）、等韻簡明指掌圖（金文京）

また、黃耀堃（香港中文大學）、吳聖雄（臺灣師範大學）、游汝杰（復旦大學）の諸氏を講師に招き特別講演を行った。

前近代中国の法制

班長 梅原 郁

前近代中国の歴史の中で「法律」がどのように形成され展開していったか、また他の歴史世界と比較してどんな特性を持っていたかといった関心のもとに、先秦時代から清代に至るまで幅広く多様な問題を追求している。過去4年間は新出の敦煌漢簡と、敦煌写本の中の法律關係の資料をテキストに使用したが、本年度は各班員がその研究成果を発表した。

中国技術史の研究

班長 田中 淡

本研究班は、1991年4月から向こう5箇年の予定で、中国の傳統的技術の特質について、とくに生活科学・技術の分野の主たる対象としてとりあげながら、検討を加えていこうとするものである。当面、研究会は技術史全般に関わる部分を主とし、関連の特定分野を副とする二本立ての構成をとり、前者は元・王禎の『農書』、後者は梁啓雄輯『哲匠録』疊山篇をそれぞれテキストとして選び、會読・譯注作成をすすめていく予定である。また、それと並行して、技術史の諸分野にわたる班員の研究発表を随時おこなってゆく。

標記の期間に、王禎『農書』農器図譜・灌漑門、

中国の礼制と礼学

班長 小南一郎

第2年目となった本研究班は、前年度に引き続き、「周礼」春官篇を賈公彦の疏で読みながら、その經文と鄭玄注とに訳注を付ける作業を続けた。本年度に読んだのは、祝（祭祀をつかさどる神祇官）と巫との役目に関わる部分である。そうした会読と並行しつつ、班員による、それぞれの専門分野からする、礼制度と礼学をめぐる研究報告が行われた。

六朝道教の研究Ⅱ

班長 吉川忠夫

本年6月14日をもって『真誥』全20巻の会読を終了した。10年に及んだ会読の成果は、『東方学报 京都』第68冊以降に「『真誥』訳注稿」として分載する。また会読終了後、共同研究班員による研究発表を行った。

秦漢隋唐の文物資料

班長 浅原達郎

本研究班では昨年に引き続き、隔週水曜日の研究会で出土文物に関する班員の研究発表が行われた。

文献と情報

班長 勝村哲也

文献班と情報班に分かれる。研究報告・調査を主とし、隔週に開催。文献班では、學術研究の成否を左右する素材の吟味を、中国を中心に日本・朝鮮の文献に及ぶまで、視野を広くもって行う。平成6・7年度には、京都建仁寺兩足院の調査を進め、明清漢籍、五山版漢籍、対馬外交文書等20リール約1万コマのマイクロ撮影をした。情報班では、素材の有効利用という観点に立って、文献に情報学的光を当てようとするものであるが、情報処理（インフォメーション・プロセッシング）に偏ることなく、常に情報資源（インフォメーション・リソース）への考察を忘れないことを旨としている。マイクロフィルムをインターネット上で転送し、検索・出力する新技術開発の他、JIS-X0221（漢字20902字種）等をwindows95、WindowsNT上に実装する試験研究を進めている。

梁啓超の研究 ―その日本を媒介とした西洋近代認識について― 班長 狭間直樹

本年度より3年目にはいった「梁啓超の研究」は、中国の近代世界認識形成、および近代西洋学術文化の摂取に多大な貢献をした梁啓超の役割に主眼を置いて研究しようとするものである。本年も前年と同様に、かれが近代西洋認識の過程で主たる媒介として依拠した同時代の日本からうけた影響に意をはった研究報告がなされた。たとえば、かれとその歴史論、経済政策、仏教論、文学論、社会主義論等の変遷にかんして、各班員による新知見が披露されている。また、梁啓超の師であった康有為に関しても、いくつかの興味深い指摘がなされた。

中国近代の都市と農村 班長 森 時彦

5年計画における3年目にはいった本研究班は、都市と農村の関係を主軸にすえて、中国近代史を長いタイムスパンで縦断的にとらえなおし、前近代から現代にいたる中国社会の変動を巨視的に分析する視座の獲得をめざしている。本年度は、工業、商業活動などの側面から都市と農村の問題にアプローチする報告が目立った。また、地域をしばって実態把握をめざす報告が、広東、四川、湖南、天津を対象になされた一方、中国一國史ではとらえきれないアジア地域経済における華僑商人の商業活動に関する報告もあり、我々の知見を豊かにしてくれた。

北朝後半期佛教思想史研究 班長 荒牧典俊

北朝後半期から隋唐期にかけての激しい歴史的変動の中において、仏教思想とは何であって、どのような歴史的役割を演じたか、そこから、どのようにして隋唐の浄土・禪思想運動が成立していくのか、といった根本問題が、いまだ、ほとんど解明されていないように思う。本研究班は、敦煌石室に残された写本の中から、その時期のなまの史料ともいえるべき諸写本を選び出し、校定、訓読、注解して学界に提供することを、第一の目的とする。それらの、いわば眠っていた史料を活用して、北朝後半期仏教思想史の具体的な過程を解明することを第二の目的とする。

第一の目的のために、假題『成實論大義章』を取

上げ、第二の目的のために随時、班員による研究報告を行ってきた。

客 員 部 門

東アジアの日常における両界媒介事象の比較研究

班長 三浦國雄

本研究班では、存在（ヒト・モノ・コト）をそれ自体として孤立的にとらえる見方を排し、実としての存在を成り立たせる虚としての〈媒介者〉に注目、その視点から東アジアの社会と日常を見直したいと考えている。このような視点の設定によって、存在が媒介者となり媒介者が存在に転じるという、虚実の定まらないアジア的なマンダラの世界をよりダイナミックに捉えうるのではあるまいか。

本年（2年度）は、研究分野も方法も異なる班員が、さまざまな媒介事象に通底することがらを求めて試論を展開した。研究会は各回とも、資料輪読と研究発表を併せ行っている。資料としては、前年度にひきつづき、『簠簋内伝』と格闘中である。

班員 井波陵一 木島史雄 金文京 齊藤希史
ブリギッテ・シテーガ 瀧井一博 ロナルド・トビ
藤井正人 藤田隆則 三浦國雄 横山俊夫（以上
所内） 北畠直文（食糧科学研） 藤井譲治（文学
部） ミヒャエル・キンスキー（同志社大） 塚本
明（三重大） 都築晶子（龍谷大） 西山 克
（京教育大） 羽賀祥二（名古屋大） 原田禹雄
（もと邑久光明園） 深澤一幸（大阪大） 藤井弘
章（京大・人間環境・M2）

1995年

1月28日	正保4版『簠簋抄』	
	上巻序23丁～28丁	横山
	「らい」について	原田
2月1日	神道大系本『簠簋内伝』巻第一	
	「天道神方」～「歳徳神方」	木島
	神道大系本『簠簋内伝』	
	「八将神方」	井波
2月18日	神道大系本『簠簋内伝』4～6	
		都築

明治日本における“illiteracy”の

人 文 学 報

諸類型について ルービンジャ

Ⅱ 個人研究

4月26日 神道大系本『簠簋内伝』 7～13

日 本 部

- | | | | |
|-------|------------------------|------|--------------------------|
| | 原田 | | |
| | 詩人と怪異現象 | 深澤 | 日本近代文化の研究 飛鳥井雅道 |
| 5月13日 | 神道大系本『簠簋内伝』巻第二 | | 19世紀における明治維新 佐々木 克 |
| | 前文～「甲乙」 | 羽賀 | 「日本植民地帝国」の経済史的研究 山本 有造 |
| | 祓禊と楽園―祭祀から文学へ | 齊藤 | 前近代日本の文明史的研究 横山 俊夫 |
| 5月24日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | 近代東アジアにおける日本の法と政治 山室 信一 |
| | 「丙丁」～「壬癸」 | 藤田 | 近代朝鮮の政治と社会 水野 直樹 |
| | 媒介者としてのローレンツ・フォン・シュタイン | 瀧井 | 戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク 籠谷 直人 |
| 6月10日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | 士族の研究 落合 弘樹 |
| | 「子」～「巳」 | 金 | 文学と近代 齋藤 希史 |
| | 媒介としての気 | 三浦 | 貨幣の研究 安富 歩 |
| 6月21日 | 媒介としての陰陽道 | ターカー | ドイツ国家学と近代日本 瀧井 一博 |
| 7月1日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | |
| | 「午」～「亥」 | 藤井正 | |
| | 崇伝による日撰び | 藤井讓 | |

西 洋 部

- | | | | |
|--------|------------------|-----|--------------------------------|
| 9月27日 | 神道大系本『簠簋内伝』「十二直」 | | 社会的相互行為の解説 谷 泰 |
| | | 藤井正 | 思想と制度 阪上 孝 |
| 10月14日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | シュメール行政・経済文書の研究 前川 和也 |
| | 「九図」～「臘日」 | 瀧井 | 古代インド・ヴェーダ祭式の構造と歴史的展開の研究 井狩 彌介 |
| | 媒介としての銭湯 | 横山 | |
| 10月21日 | 食に見られる様々な媒介事象 | 北畠 | フランスの詩学 宇佐美 齊 |
| 11月13日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | フランス革命と近代的主体の成立 富永 茂樹 |
| | 「復日」～「三箇悪日」 | 三浦 | 南アジアの宗教と社会 田中 雅一 |
| | 顯なる媒介―中国における繪畫とそ | | 文学理論の研究 大浦 康介 |
| | のタイトル | 木島 | 後期ヴェーダ文献の成立史研究 藤井 正人 |
| 11月18日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | ―ブラーフマナからウパニシャッドへ― |
| | 「無翹日」～「八剛神方」 | 藤田 | 初期近代ポーランドの政治社会 小山 哲 |
| | わが国の中世の「らい」 | 原田 | オカルティズムの論理学的研究 鈴木 啓司 |
| 12月9日 | 神道大系本『簠簋内伝』 | | 音楽の記号論 藤田 隆則 |
| | 「没日」～「往亡日」 | 塚本 | フランクフルト学派の政治思想 上野 成利 |
| | 琉球の<国>の思想 | | |
| | ―唐と大和の間 | 都築 | |

東 方 部

- | | |
|-------------|-------|
| 宋代官僚制度研究 | 梅原 郁 |
| 六朝隋唐精神史 | 吉川 忠夫 |
| 中国近代社会思想研究 | 狭間 直樹 |
| ガンダーラ佛教寺院研究 | 桑山 正進 |
| 中国古代の伝承文化研究 | 小南 一郎 |

原始佛教起源論	荒牧 典俊
中国美術の様式と意味	曾布川 寛
中国建築の様式・技法・空間	田中 淡
近代中国の綿紡織業	森 時彦
新漢字コード系の構築	勝村 哲也
道教思想研究	麥谷 邦夫
敦煌寫本の言語史的研究	高田 時雄
中国古代中世の法制	富谷 至
先秦時代の金文	浅原 達郎
中国の小説、演劇及び講唱文学の演変	金 文京
清代の文化と社会	井波 陵一
古代中国の考古学研究	岡村 秀典
中国科学の基礎理論	武田 時昌
古代中国における天文学と文化	新井 晋司
初期イスラーム時代のアフガニスタン・北インドの歴史的研究	稲葉 穣
インド・中国における唯識仏教の基盤と背景	船山 徹
中国共産主義運動の歴史と思想	石川 禎浩
宋元道教研究	横手 裕
明清時代の官僚制度	谷井 陽子
中国中世學術史の研究	木島 史雄
中国小学史	森賀 一恵
中国仏教美術の研究	稲本 泰生
前近代朝鮮の政治と社会	矢木 毅

事業概況

夏期公開講座

1995年 7月	於 本館大会議室
ー物語としての過去ー	
7 日	自伝のトボスー六朝士大夫の私語りから 齋藤 希史
現代インドの宗教ナショナリズムが語る過去 田中 雅一	
バビン共和国盛衰記ー近代ポーランドのパロディ国家 小山 哲	
8 日	「犬と中国人は入るべからず」 ー上海租界伝説 石川 禎浩
「統治の書」と十～十二世紀の東方イスラーム世界 稲葉 穣	
王昭君の物語ー片思いの文学 金文京	

開所66周年記念公開講演会

1995年11月16日	於 本館大会議室
經典の偽作と戒律ー梵網教をめぐって 船山 徹	
読む機械ー啓蒙思想と活字メディア 富永 茂樹	
「満洲国」の終焉 山本 有造	

研究成果の刊行

I 紀 要

人文学報 第75号

能の写実的な解釈についてー相対化の試みー

藤田 隆則

テキストとしての神話ー本居宣長・上田秋成論争とその周辺ー

飛鳥井雅道

ワシントン豪傑物語ー蘭学はいかにして婦女童蒙むけ海外知識になるかー

平田 由美

小説と伝記ー『西国立志編』における言説の分割ー

谷川 恵一

『浮城物語』の近代

齋藤 希史

『草迷宮』の論理

須田 千里

人 文 学 報

ユディスティラ『負けないぞ』—トラウマの文学を
論ずる—

土屋 健治

現実の仮面性と仮面の現実性—レールモントフの戯
曲に見るロシア社交界—

木村 崇

「自作語り」として見るポー『構成の原理』

鈴木 啓司

PRELUDE TO A KISS

米井 力也

光太夫の「接吻」—『魯齊亜國睡夢談』より—

生田美智子

ストーリーラインと感覚的リアリティーの構造につ
いて

浜田 秀

人文学報 第76号

正義論と義務論理学

山下 正男

カウム・ベレルマンの正義論

江口 三角

法のレトリックからダイアレクティックヘーガス
キンの証明責任論を手がかりにして— 亀本 洋
現代正義論における人格概念の役割—視点の問題を
手掛かりに—

若松 良樹

正義感覚と法行動

阿部 昌樹

標準と正義

中山 竜一

個人を強化する制度と生命倫理—コミュニタリアン
的リベラリズムと出生前診断—

浜野 研三

国家と社会に対する数理的接近法

山下 正男

満鉄の資金調達と資金投入—「満洲国」期を中心に—

安富 歩

考古学的意味での家畜化とは何であったか—人・羊・
山羊間のインターアクションの過程として—

谷 泰

セアンスにおける災因論を通してみた霊媒の性格—
シンガポールの寺廟の事例から—

根布 厚子

彙報 (1994年1月～1994年12月)

東方學報 第67冊

六朝時代における菩薩戒の受容過程—劉宋・南齊期
を中心に—

船山 徹

清代則例省例考

谷井 陽子

刑は大夫に上らず—宋代官員の處罰—

梅原 郁

明後期祁門胡姓農家族生活状況剖析

周 紹泉

Shah-ji-ki Dheri 主塔の遷変

桑山 正進

元史刑法史訳注稿 (1)

「中国近世の法制と社会」研究班

彙 報 (1994年1月～1994年12月)

ZINBUN (欧文紀要) No.29

Shoshin KUWAYAMA, Dating Tašovarman of
Kanauf on the Evidence of Huichao 惠超

Pierre ROSANVALLON, Rationalisme politique
et démocratie en France

(XV^e - X^e siècles)

Tom FITZSIMMONS, Ceramics and the Chronology
of Dilberdzhin Tepe and Zhiga Tepe
(North Afghanistan)

INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES,
STAFF AND SEMINARS:1994

II 研究報告その他

中国古代禮制研究

小南一郎編

1995年3月31日刊

宋会要輯稿編年索引

梅原 郁編

1995年3月31日刊

中国叢書綜録未収日蔵書目稿

李 銳清編

1995年3月31日刊

所報「人文」第41号

1995年3月31日刊

所 員 動 静

- ・小野和子（東方部）教授は、停年退官（3月31日付）。
- ・光永雅明（西洋部）助手は、辞任（3月31日付）の上、神戸市外国語大学講師に就任。
- ・佐々木博光（西洋部）助手は、辞任（3月31日付）の上、大阪府立大学総合科学部講師に就任。
- ・中砂明德（東方部）助手は、辞任（3月31日付）の上、神戸女子大学講師に就任。
- ・阪上孝教授（西洋部）を当研究所長及び附属東洋学文献センター長に併任（4月1日～1997年3月31日）。
- ・三浦國雄大阪市立大学教授は、併任教授（比較文化研究部門、4月1日～1996年3月31日）。
- ・串田秀也大阪教育大学助教授は、併任助教授（比較文化研究部門、4月1日～1996年3月31日）。
- ・森時彦（東方部）助教授は、教授に昇任（4月1日付）。
- ・武田時昌信州大学助教授は、当研究所助教授（東方部）に転任（4月1日付）。
- ・小山哲島根大学助教授は、当研究所助教授（西洋部）に転任（4月1日付）。
- ・塚本明（日本部）助手は、三重大学人文学部助教授に昇任（4月1日付）。
- ・籠谷直人名古屋市立大学助教授を、助教授（日本部）に採用（4月1日付）。
- ・瀧井一博氏を助手（日本部）に採用（4月1日付）。
- ・谷泰教授（西洋部）は、12月18日大阪発、国立科学研究センター所属現代イラン世界に関する社会科学研究部門に於いてJ.P.Digard教授とイランとくにバクチアリの出産期の家畜管理に関する資料の意味についての意見交換及び文献資料蒐集、ミラノ大学図書館に於いて家畜管理に関する研究資料蒐集、アブルツォ県チェルクエト村に於いて家畜管理についての調査を行い、1月1日帰国。
- ・小野和子教授（東方部）は、1月4日大阪発、海南省に於いて「中国国際漢学研討会」に参加、1月10日帰国。
- ・小南一郎教授（東方部）は、1月5日大阪発、海
- 南省に於いて「中国国際漢学研討会」に参加、民族学博物館に於いて中国の礼制及び礼学に関する研究資料蒐集を行い、1月13日帰国。
- ・岡村秀典助教授（東方部）は、1月7日大阪発、荊州地区博物館に於いて湖北江陵陰湘城遺址発掘調査の打ち合せ及び遺址周辺の踏査、出土遺物の調査を行い、1月13日帰国。
- ・田中淡教授（東方部）は、12月3日大阪発、国立台湾大学、国立中央図書館、故宫博物院、国立自然科学博物館、東海大学、板橋林本源宝園、清華大学に於いて台湾寺廟・庭園に関する共同調査研究・研究資料蒐集・学術交流、孔子廟に於いて古建築調査、龍山寺、鹿港民俗資料館に於いて集落調査を行い、1月29日帰国。
- ・田中淡教授（東方部）は、2月5日大阪発、チャルメルス工科大学に於いて中国庭園に関する共同研究及び研究資料蒐集、スカンセン野外民家博物館及びスウェーデン国立歴史博物館に於いて研究資料蒐集を行い、2月12日帰国。
- ・梅原郁教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、2月22日成田発、大英図書館・ブラックフライアース分館に於いてスタイン中央アジア蒐集資料の調査と研究を行い、3月2日帰国。
- ・栗山正進教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、2月28日大阪発、マトゥラー博物館に於いてストゥーパ資料収集、サンゴール遺跡に於いてストゥーパ遺構の調査を行い3月7日帰国。
- ・藤井正人助教授（西洋部）は、2月15日大阪発、アディヤール図書館、政府東洋学写本図書館、ケララ大学写本図書館に於いてサーマ・ヴェーダに関する資料収集、パニヤール村近辺に於いてサーマ・ヴェーダ伝承の現地調査を行い、3月20日帰国。
- ・岡村秀典助教授（東方部）は、3月10日大阪発、荊州博物館に於いて湖北陰湘城遺址の発掘調査を行い、3月20日帰国。
- ・高田時雄助教授（東方部）は、3月16日大阪発、スタンフォード大学に於いて「中国語法史学会」に出席、3月21日帰国。
- ・船山徹助手（東方部）は、文部省科学研究費補

- 助金により、3月21日大阪発、国立博物館に於いて博物館遺物調査、デリー大学図書館に於いて仏教遺跡に関する資料収集、カンヘリー石窟、カルリ石窟、バージャ石窟に於いて石窟寺院遺跡調査を行い、3月30日帰国。
- ・金 文京助教授（東方部）は、3月24日大阪発、復旦大学古籍研究所、北京図書館に於いて中国演劇に関する資料収集、杭州大学に於いて「江南と日本」国際シンポジウムに参加、4月6日帰国。
 - ・富永茂樹助教授（西洋部）は、委任経理金により、3月7日大阪発、社会科学高等研究院及び国立図書館に於いて「19世紀前半における主権の観念の研究」セミナー出席及び研究者の組織化に関する資料収集、ウィーン大学日本学研究所に於いて研究資料収集を行い、4月15日帰国。
 - ・岡村秀典助教授（東方部）は、4月13日福岡発、荊州博物館に於いて湖北陰湘城遺址の発掘調査を行い、5月14日帰国。
 - ・富谷 至助教授（東方部）は、5月21日羽田発、中央研究院歴史語言研究所に於いて居延漢簡の調査・研究を行い、5月26日帰国。
 - ・田中 淡教授（東方部）は、在外研究員旅費により、8月6日大阪発、香港中文大学に於いて「中国建築史国際会議」に出席、8月11日帰国。
 - ・稲本泰生助手（東方部）は、7月26日大阪発、北京大学、故宮博物院、敦煌石窟、敦煌市博物館、酒泉市博物館、丁家閭墓、馬蹄寺石窟、文廟、雷台漢墓、天梯山石窟、甘肅省博物館、陝西歴史博物館、兵馬俑博物館、洛陽博物館、龍門石窟、南京博物館に於いて中国美術史に関する調査及び資料収集を行い、8月22日帰国。
 - ・前川和也教授（西洋部）は、委任経理金により、7月5日大阪発、大英博物館に於いてシュメール楔形文字粘土板文書の研究を行い、8月28日帰国。
 - ・富谷 至助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、7月30日大阪発、国立博物館、民族学博物館、大英図書館に於いて欧州所蔵中国簡牘調査及び研究打ち合わせを行い、8月23日帰国。
 - ・木島史雄助手（東方部）は、8月8日大阪発、上海博物館、洛陽博物館、鞏縣石窟、水泉石窟、商城博物館、龍門石窟、洛陽漢魏故城、閔林石刻藝術館、法門寺、法門寺博物館、慈善寺石窟、乾陵、乾陵博物館、永泰公主墓、章懷太子墓、昭陵、昭陵博物館、葉王山碑林、秦始皇帝陵、山西省博物館、天龍山石窟、普祠、故宮博物院、歴史博物館に於いて中国石刻資料収集、陝西歴史博物館に於いて王世平宣教部長と学術交流を行い、8月24日帰国。
 - ・谷 泰教授（西洋部）は、7月21日大阪発、大英博物館、熱帯研究所、民族学研究所に於いて家畜化起源に関する考古学関係資料蒐集、ケンブリッジ大学に於いて Clutton Brock 主任研究員と動物考古学動物行動学等家畜化起源論関係について討議、ベルガモ県北部山村に於いて牧民への聞き取り調査を行い、8月30日帰国。
 - ・山本有造教授（日本部）は、文部省科学研究費補助金により、8月17日成田発、社会科学院、吉林省档案館、吉林省図書館、遼寧省档案館、遼寧省図書館、大連市档案館、大連市図書館に於いて汎アジア圏長期経済統計データベースの作成に関する統計資料調査を行い、9月5日帰国。
 - ・吉川忠夫教授（東方部）は、8月30日大阪発、襄陽師範高等専科學校学術交流センターに於いて「第五回魏晉南北朝史学会及び国際学術討論会」出席、南京大学、隋唐城遺跡に於いて六朝隋唐精神史に関する資料蒐集を行い、9月12日帰国。
 - ・岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、8月28日大阪発、国家文物局、北京大学に於いて内蒙古岱海地区における考古調査打ち合わせ、内蒙古文物考古研究所、岱海遺址に於いて考古調査を行い、9月20日帰国。
 - ・森 時彦教授（東方部）は、9月4日大阪発、中国近代資料研究センターに於いて中国近代史に関する資料蒐集、国立科学研究センターに於いて「中国の知識文化におけるヨーロッパ思想国際会議」に出席・研究発表を行い、9月22日帰国。
 - ・石川禎浩助手（東方部）は、9月4日大阪発、中国近代資料研究センターに於いて中国近代史に関する資料蒐集、国立科学研究センターに於いて「中国の知識文化におけるヨーロッパ思想国際会議」に出席・研究発表を行い、9月22日帰国。
 - ・山室信一助教授（日本部）は、9月10日大阪発、

- 国立科学研究センターに於いて「中国の知識文化におけるヨーロッパ思想国際会議」に出席・研究発表、中国近代資料研究センターに於いて日仏政治思想に関する資料蒐集を行い、9月23日帰国。
- ・狭間直樹教授（東方部）は、9月10日大阪発、国立科学研究センターに於いて「中国の知識文化におけるヨーロッパ思想国際会議」に出席・研究発表、中国近代資料研究センターに於いて中国近代政治思想に関する資料蒐集を行い、9月23日帰国。
 - ・齋藤希史助手（日本部）は、9月10日大阪発、国立科学研究センターに於いて「中国の知識文化におけるヨーロッパ思想国際会議」に出席・研究発表、中国近代資料研究センターに於いて中国近代文学に関する資料蒐集を行い、9月23日帰国。
 - ・水野直樹助教授（日本部）は、9月24日大阪発、政府記録保存処、中央図書館に於いて旧朝鮮総督府文書調査、世宗文化会館に於いて「第8回韓国民族史国際学術シンポジウム」に出席、10月1日帰国。
 - ・曾布川 寛教授（東方部）は、委任経理金により、9月19日大阪発、陝西省考古研究所、秦始皇馬俑博物館、彬縣慈善寺石窟、広元石窟、四川省博物館、山西省博物館、天龍山石窟、北京大学、故宮博物院、中国歴史博物館に於いて中国美術資料の調査及び蒐集を行い、10月4日帰国。
 - ・谷井陽子助手（東方部）は、9月1日大阪発、遼寧大学に於いて入関以前清朝に関する学術交流及び資料調査を行い、10月13日帰国。
 - ・梅原 郁教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、9月18日大阪発、国立公文書館、ギメ博物館に於いてペリオ将来敦煌写本の調査研究、ウフィッツイ美術館、市立美術館に於いて敦煌写本に関する資料蒐集を行い、10月18日帰国。
 - ・荒牧典俊教授（東方部）は、10月16日成田発、世界宗教研究所に於いて「第6回日中仏教学術会議」に出席・研究発表、10月19日帰国。
 - ・小南一郎教授（東方部）は、10月19日大阪発、故宮博物院に於いて故宮博物院70周年記念特別展に係る資料調査を行い、10月22日帰国。
 - ・木島史雄助手（東方部）は、10月19日大阪発、故宮博物院に於いて故宮博物院70周年記念特別展に係る資料調査を行い、10月22日帰国。
 - ・横手 裕助手（東方部）は、10月19日大阪発、故宮博物院に於いて故宮博物院70周年記念特別展に係る資料調査を行い、10月22日帰国。
 - ・籠谷直人助教授（日本部）は、文部省科学研究費補助金により、10月19日大阪発、香港大学に於いて「近代アジア経済発展における華僑ネットワーク」に関する学会に出席、10月23日帰国。
 - ・藤田隆則助手（西洋部）は、10月17日大阪発、ロスアンジェルスに於いて「第40回民族音楽学会大会」に参加、10月24日帰国。
 - ・田中 淡教授（東方部）は、10月16日大阪発、中国社会科学院考古研究所、故宮・歴史博物館、独楽寺、天龍山石窟、普祠、山西省博物館、含元殿、漢長安城、陝西歴史博物館、兵馬俑坑、陝西省考古博物館に於いて伝統的文化財保存技術の調査研究を行い、10月26日帰国。
 - ・安富 歩助手（日本部）は、11月1日大阪発、ソウルに於いて「東北アジアの平和と韓日協力体制の模索」国際学術シンポジウムに参加、11月6日帰国。
 - ・荒牧典俊教授（東方部）は、11月17日大阪発、韓国仏教研究院に於いて「国際仏教学術会議」に参加、11月19日帰国。
 - ・曾布川 寛教授（東方部）は、委任経理金により、11月15日大阪発、中央研究院歴史語言研究所、故宮博物院、台湾大学芸術史研究所に於いて中国美術資料の調査及び蒐集を行い、11月23日帰国。
 - ・高田時雄助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月11日大阪発、ローマ国立中央図書館に於いてカトリック宣教師将来の文献調査を行い、12月10日帰国。
 - ・森賀一恵助手（東洋学文献センター）は、文部省科学研究費補助金により、11月18日大阪発、ローマ国立中央図書館に於いてカトリック宣教師将来の文献調査を行い、12月10日帰国。
 - ・稲葉 穰助手（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月20日大阪発、マドラス博物館、ハイデラバード博物館、デリー博物館、ラホール博物館に於いてストゥーバ関連の資料収集、タキシラ遺跡に於いて遺跡調査及び資料収集を行い、

12月20日帰国。

- 船山 徹助手（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月20日大阪発、マドラス博物館、パトナ博物館、サールナート博物館、ラホール博物館に於いてストゥーパ関連の資料収集、タキシラ遺跡に於いて遺跡調査及び資料収集を行い、12月20日帰国。
- 稲本泰生助手（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月20日大阪発、マドラス博物館、パトナ博物館、サールナート博物館、ラホール博物館に於いてストゥーパ関連の資料収集、タキシ

ラ遺跡に於いて遺跡調査及び資料収集を行い、12月20日帰国。

- 栗山正進教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、11月20日大阪発、マドラス博物館、カルカッタ博物館、デリー博物館、ラホール博物館、インド考古局に於いてストゥーパ関連の資料収集、タキシラ遺跡に於いて遺跡調査及び資料収集を行い、12月22日帰国。
- 岡村秀典助教授（東方部）は、文部省科学研究費補助金により、12月12日大阪発、蘇州市昆山に於いて草鞋山遺址の発掘調査を行い、12月25日帰国。